

進路学習の内容一覧

— 社会参加を進める力と
その学習シラバス(例) —

活用ガイド



平成20年3月

神奈川県立総合教育センター

はじめに

この平成20年3月、障害の有無にかかわらず、国民誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合う共生社会を目指す国の障害者基本計画の前期5年が終わります。この5年間に、教育では、特別支援教育への転換、個別の支援計画の導入などが進められました。労働や福祉では、障害保健福祉改革等が進められ、地域就労援助センターやジョブコーチなど就労支援の資源が増え、障害者雇用率も改善傾向です。グループホームなどの生活支援資源も確実に拡大しています。さらに、この共生社会は、自己選択と自己決定の下に社会のあらゆる活動に参加、参画し、その一員として責任を分担する社会とされます。

また、平成16年1月、文部科学省のキャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議は、「学校の教育活動全体を通じて、児童生徒の発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育の推進が必要」であることを示しました。

これらの情勢をあわせると、数年後の社会生活への移行を準備する場と言われる特別支援学校高等部では、地域のあらゆる活動への参加を進める力を身に付ける教育活動を、キャリア発達の視点を持って進めることが今まで以上に求められていると考えられます。

こうした状況を踏まえ、当センターでは、平成19年度支援教育研究事業として「特別支援学校（知的障害教育部門）における就労を目指した進路学習の実践的研究」に取り組み、その成果の一つとして、『進路学習の内容一覧－社会参加を進める力とその学習シラバス（例）－』活用ガイド』を作成することができました。本ガイドが、各学校での進路学習のカリキュラム改善や授業作りなどに活用いただければ幸いです。

平成20年3月

神奈川県立総合教育センター
所長 田邊克彦

目 次

はじめに

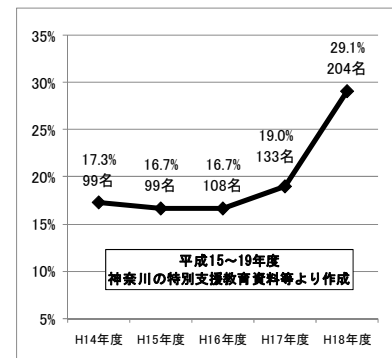
1 進路学習の内容一覧－社会参加を進める力とその学習シラバス（例）－の概要	1
(1) 卒業生の進路状況	1
(2) 進路学習の実施状況	1
(3) 作成のねらい	1
(4) 作成の方針	1
(5) 項目の構成	2
(6) 分野の構成	2
2 進路学習の内容一覧－社会参加を進める力とその学習シラバス（例）－の活用	3
(1) 様々な活用	3
(2) 学習内容を振り返る	4
(3) 学習の関連性を振り返る	5
(4) 3年間の計画性を振り返る	6
(5) 自校版シラバスと改善案を考える	6
*進路学習の内容一覧－社会参加を進める力とその学習シラバス（例）－	7
*研究の紹介	8
*進路学習の参考となる文献	8

1 進路学習の内容一覧－社会参加を進める力とその学習シラバス(例)－の概要

(1) 卒業生の進路状況

平成18年度の神奈川県の特設支援学校知的障害教育部門高等部（以下、高等部と表記）卒業生の進路先は、企業就労約29%、職業訓練機関及び進学等約4%、福祉機関等約65%、在宅等約2%でした。

近年の傾向として、企業就労率の上昇があります。平成17年度から上昇傾向を示し、平成18年度は大きく伸びました。（第1図）これは、障害者の就労支援を推進する国の障害保健福祉改革も背景にした労働等関係諸機関との様々な連携の進展と、これらをかした現場実習等の機会拡大など各学校の進路指導の努力によるものと考えられます。



第1図 企業就労率の推移

(2) 進路学習の実施状況

総合教育センターでは、平成19年度、県立校を対象とした進路学習実施状況調査を行いました。調査から高等部の進路学習について、次のことが分かりました。

- ① 生活単元学習や総合的な学習の時間などを中心に、日常生活の指導や他の教科等と互いに補完し合いながら、教育活動全般にわたって進められていること
- ② 現場実習や働くことに関する学習に加えて、自分を知ることに関する学習へと取組が広がっていること
- ③ 高等部としての組織的・計画的取組はまだ十分ではないこと

なお、詳しい調査結果については、総合教育センター「研究集録第27集（平成19年度）『特別支援学校（知的障害教育部門）高等部の就労を目指した進路学習の実践的研究』」
<http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/kankoubutu/shuroku.html> をご覧下さい。

(3) 作成のねらい

このような状況を踏まえ、進路学習の組織的・計画的取組を進めるために、各学校における進路学習シラバス作成と、その課題改善の取組を進める資料の一つとして、7ページ第4表「進路学習の内容一覧－社会参加を進める力とその学習シラバス(例)－」（以下、「シラバス例」と表記）を作成しました。

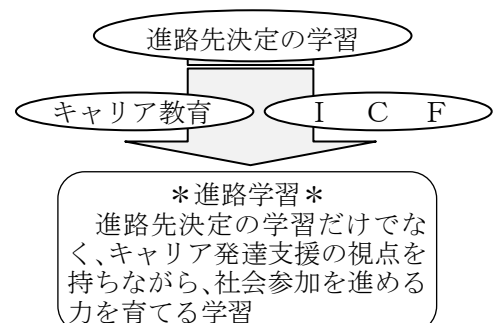
(4) 作成の方針

「シラバス例」は、主として、高等部の就労を目指した進路学習を対象としています。

作成にあたっては、教育活動全体を通じて進めるとされるキャリア教育や、WHO（世界保健機関）によるICF（国際生活機能分類）の活動と参加の考え方を参考にしました。

すなわち、進路先決定の学習だけでなく、自己理解や人間関係調整能力、選択・決定能力等のキャリア発達支援の視点を持ちながら、勤労観、職業観を育て、社会参加を進める力を育てる学習を進路学習とし、職業生活以外に経済生活や家庭生活、余暇活動などに関する内容も対象としました。（第2図）

これら広範な対象の全体像をつかみやすいよう一覧できる量にまとめることと、具体的な学習をイメージしやすいよう単元名や学習方法を例示することに留意しました。



第2図 「シラバス例」の進路学習

(5) 項目の構成

「分野」、「単元名・題材名等の例」、「中心となる学習のねらい・つきたい力」、「学習方法の例」などの項目で構成しました。(第1表)

「キャリア諸能力の領域」は、総合教育センターが作成した「キャリア教育推進ハンドブック」(2005 p. 13)の「キャリア発達にかかわる諸能力」の5能力領域から、主に該当するものを示しました。

第1表 項目の構成

・分野
・単元・題材名等の例
・中心となる学習のねらい・つきたい力
・学習方法の例
・教科・領域等指導場面の例
・キャリア諸能力の領域
・主な実施学年

(6) 分野の構成

ア 社会参加の視点による「働く」、「楽しむ」、「暮らす」と、キャリア発達の見点による「自分を知る」の大分野を設け、さらにA～Nの14の小分野に分けました。(第3図、第2表)

イ 「自分を知る」は、自己理解と将来設計に関する学習です。自分の成長と特性、課題や将来について考える「A 自己理解」と「B 将来設計」を設けました。

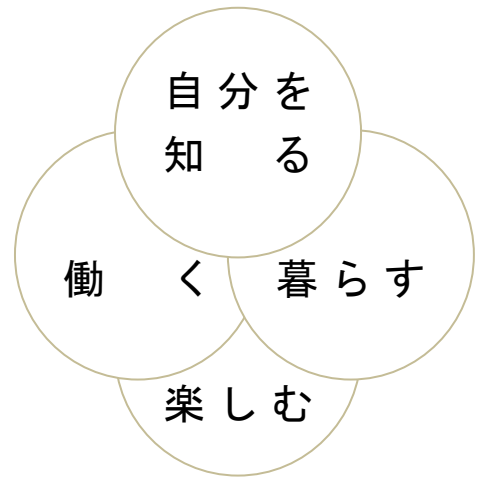
ウ 「働く」は、職業に関する学習と作業学習、実習に関する学習です。「C いろいろな仕事」、「D 職場で大切なこと」、「E 作業学習」、「F 現場実習」、「G 現場実習事前事後学習」を設けました。進路相談、現場実習についても、他の学習と互いに関連させながら3年間の計画性や系統性を考える必要があることから、「シラバス例」に含めました。

エ 「楽しむ」は、他者との関わり方に関する学習と余暇に関する学習です。一人で楽しむ余暇もありますがそれは選択された結果であり、余暇活動は人との豊かな関わりを含むものととらえ、社会参加を「楽しむ」力としてくりました。「H 大人のマナー」、「I コミュニケーション」、「J 余暇」を設けました。

オ 「暮らす」は、生活に関する学習と社会の仕組みに関する学習です。家庭生活、経済生活など、地域での自立した生活を進める「K 金銭管理・消費生活」、「L 健康的な暮らし」、「M 独り立ち」、「N 制度の理解と利用」を設けました。

カ これらの分類は固定されたものではなく、一例です。例えば、学校の状況にあわせて「D 職場で大切なこと」、「K 金銭管理・消費生活」、「L 健康的な暮らし」、「M 独り立ち」などから、「安全」にかかわる項目を抜き出して集め、新たな分野を設けることも考えられます。

キ A～Nの各小分野内の配列は、概ね、学習対象を身近なことから社会的なことへ広げ、また学習方法が関心から探索へ、試行から選択・決定へ進むよう留意しましたが、相対的なものです。



第3図 大分野

第2表 小分野の構成

<p>「自分を知る」</p> <p>A 自己理解</p> <p>B 将来設計</p>
<p>「働く」</p> <p>C いろいろな仕事</p> <p>D 職場で大切なこと</p> <p>E 作業学習</p> <p>F 現場実習</p> <p>G 現場実習事前事後学習</p>
<p>「楽しむ」</p> <p>H 大人のマナー</p> <p>I コミュニケーション</p> <p>J 余暇</p>
<p>「暮らす」</p> <p>K 金銭管理・消費生活</p> <p>L 健康的な暮らし</p> <p>M 独り立ち</p> <p>N 制度の理解と利用</p>

2 進路学習の内容一覧—社会参加を進める力とその学習シラバス(例)—の活用

(1) 様々な活用

「シラバス例」(7ページ第4表)は、自校版シラバスの作成など、学部における研修等で進路学習の組織的・計画的取組を進める際の資料ですが、他にも、学年や教員個人などによる様々な使い方が可能です。いくつかの例を挙げます。

ア 卒業後の社会参加を進める力を知りたい

卒業生を出した経験がないと、「この学習は、卒業後の生活にどのようにつながるのだろうか?」「どこに力点を置いて、指導するといのだろうか?」と学習のねらいやつながりを考えることがあります。

「シラバス例」では、卒業後の社会参加をイメージして身に付けていきたい力を網羅的に示していますので、「単元名・題材名等の例」などから今取り組んでいる学習と類似した物を探すと、3年間の学習全体の中でどのような位置にあるのか把握して、必要な指導にあたることができます。

小・中学部や、特別支援学級等の担任にとっても、高等部に進んだ場合の学習内容をイメージして、指導を考える材料となります。

卒業後の社会参加を進める力を知り、毎日の指導の見通しを持ちたい

「単元名・題材名等の例」から、類似の学習を探す

第4図 活用例1

イ 他校の取組を参考に、より良い授業づくりをしたい

「シラバス例」は県立校高等部等の取組を調べて作成しましたので、他校の取組を参考にしたい場合に役立ちます。

例えば、単元計画を作る際に、該当分野の「中心となる学習のねらい・身につけたい力」を参考にしながら、もう一度指導目標等を見直すことができます。また、「単元名・題材名等の例」から単元の構成を、「学習方法の例」から具体的な教材や展開のヒントを得ることができます。さらに、「領域・教科等指導場面の例」から、他教科等との連携や役割分担を視野においた計画や指導を考えられます。

他校の取組を参考にし、より良い授業づくりをしたい

「中心となる学習のねらい・身につけたい力」、「単元名・題材名等の例」、「学習方法の例」等からヒントを得る

第5図 活用例2

ウ 一人ひとりの生徒の今後の学習課題を明らかにしたい

一人ひとりの生徒が学習した内容や身に付けた力を確認して、今後の学習の指針の参考とする使い方もあります。

「中心となる学習のねらい・身につけたい力」の各項目をチェックリスト的に使って、今までに学習したこと、身に付いていることを確認することができます。また、3年生などでは個々の卒業後の生活を具体的にイメージしながら、卒業までに重点的に学習させたい課題や、必要な支援を考える参考にすることもできます。

生徒の今後の学習課題を明らかにしたい

「中心となる学習のねらい・身につけたい力」をチェックリスト的に使う

第6図 活用例3

(2) 学習内容を振り返る

「シラバス例」A～Nの各分野ごとに、学習内容を振り返ることができます。いくつかの留意点を挙げます。

ア 視点

「シラバス例」A～Nの分類を活用しながら、次の視点を参考にすると、振り返りが深まりやすくなります。

- ① 学習内容の重複や不足
- ② 学習量の分野による違いと、学習学年との関係
- ③ 分野を超えた課題の共通理解の有無
- ④ 学部共通で扱う内容と学年等で扱いが異なる内容など、取り扱い方の違い

全ての分野を過不足無く同じような方法で学習することが必要なものではありません。分野による違いが、生徒の発達段階や卒業後の社会参加を踏まえた適切なものとなるよう留意することが大切です。

イ 進め方

個人で振り返る場合は、ペンの色を使い分けながら「シラバス例」にアンダーラインを引くと容易です。また、気付いたことを直接書き込んだり、関連のある取組を線で結ぶことも有効です。

数人で話し合う場合は、第7図のようなシートと付箋等を用意すると進めやすくなります。シートの項目は、学校の状況に合わせて変更しても良いでしょう。

	A 自己理解	B 将来設計	C いろいろな 仕事	D 職場で 大切なこと	E 作業学習	F 現場実習	G 現場実習 事前事後学習	H 大人のマナー	I コミュニケーション	J 余暇	K 金銭管理・ 消費生活	L 健康的な 暮らし	M 独り立ち	N 制度の理解と 利用
高1														
高2														
高3														

第7図 学習内容整理シート

(3) 学習の関連性を振り返る

「シラバス例」A～Nの各分野ごとに、様々な学習の互いの関連性を振り返り、より効果的な展開を考えることができます。見直したい分野から始めましょう。

ア 視点

次の各学習の関連が効果的なつながりとなっているかを考えると、振り返りが深まります。

- ① テーマやまとまりを持って考える学習
- ② 生徒の思いや希望を引き出す相談的な学習
- ③ 知識による理解を経験で深める学習
- ④ 経験の成果と課題を振り返り、評価・整理する学習
- ⑤ 成果の定着と課題の改善を図る継続的な繰り返しの学習
- ⑥ 学年進行による学習のつながりと発展

また、これらの取組を関連付けながら進める教員の共通理解と役割分担にも留意することが大切です。

イ 進め方

学習の進め方の分類には、次の第3表を使うこともできます。

第3表 進め方の分類例

日常型	毎日のように、必要な場面で、繰り返し取り組まれているもの
通年型	ほぼ1年間を通し、木曜日の2コマ目などと日課表に位置付けられた場面で、テーマやまとまりを持って継続的に取り組まれているもの
単元型	一定期間、単元等を組み、テーマやまとまりを持って取り組まれているもの
経験型	行事など、経験を中心としたもの
相談型	個別的対応を中心に、教員などと希望や課題について話し合うもの
他	その他

個人で振り返る場合は、「シラバス例」に色を使い分けながらアンダーラインを引くと容易です。また、気付いたことを直接書き込んだり、関連のある取組を線で結ぶことも有効です。

数人で話し合う場合は、第8図のようなシートと付箋等を用意すると進めやすくなります。

	日常	通年	単元	経験	相談	他
高1						
高2						
高3						

第8図 関連性整理シート

(4) 3年間の計画性を振り返る

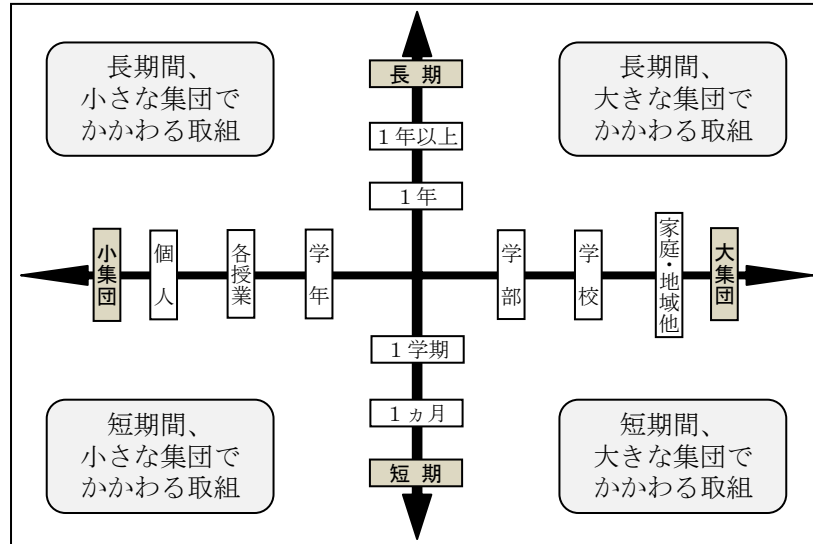
(2)と(3)の振り返りを合わせて考えると、3年間の計画性や系統性の組立が分かります。次の視点が参考になります。

- ① 横を見る視点・・・学習内容の不足、重複を見る
- ② 縦を見る視点・・・授業間の効果的つながりなど、様々な学習の互いの関連性を見る
- ③ 全体を見る視点・・・卒業後の社会参加を考え、全体像を見渡す

(5) 自校版シラバスと改善案を考える

振り返りを進めると、自校版進路学習シラバスと今後充実を図りたいことが浮かび上がってきます。改善案を考えるにあたって、次のことに留意すると具体的な改善と充実結びつきやすくなります。

- ① 「以前やったが難しかった」「今までのやり方と合わない」と思われる方法にも、有効な手立てが含まれている場合があります。豊かな発想が良い改善案につながります。
- ② 企業や就労支援機関など学校外からの助言は、新たな視点の獲得を進めます。
- ③ カリキュラム全体を考えるか、具体的な授業の検討をするかなど、テーマを絞り込みます。絞り込みには、次の第9図のような集団の大きさと時間を軸にした整理シートを用意しても良いでしょう。



第9図 改善案整理シート

実践・評価へ

具体案検討グループの編成

タイムスケジュールを大切に、定期的な共有・助言の機会設定

第4表 進路学習の内容一覧 -社会参加を進める力とその学習シラバス(例)-

分野	単元名・題材名等の例	中心となる学習のねらい・つけたい力	学習方法の例	教科・領域等指導面の例	キャリア能力の領域	主な実施学年
自己理解と将来設計に	A 自己理解 「自己紹介、私のプロフィール、私のファッション」 「今までの自分、今の自分、これからの自分」 「自分のことアンケート、友だちのことアンケート」 「アセスメントって何？」 「自分発見、良いところとつけたい力、助けてほしいこと」	◇簡単な自己紹介の方法を身に付ける ◇自分らしさ、友だちの個性など、人それぞれの好みや表現の違いを知る ◇小学生、中学生時代の自分を振り返り、成長を肯定的にとらえる ◇各種アセスメントの受検を通して、自分の特性を知る ◇自分の良いところ、つけたい力、助けてほしいことに気付く	◇様々な場面を利用した自己紹介 ◇服や装飾小物選びとファッションショー ◇アルバムや家族などからの聞き取り、小中学校教員のビデオレターなどを活用した、今まで頑張ってきたこと、うまくできるようになったことなどの振り返り ◇自分のことアンケートの記入 ◇各種発達検査や総合教育センターのアセスメントの利用 ◇これらの学習を書き込み、継ぎ足し、振り返る進路学習帳の使用	総合的な学習の時間 生活単元学習 学級活動 など	自己教育能力	1年 2年 3年
	B 将来設計 「進路学習ガイダンス」 「自分史作り、20歳の自分、30歳の自分、60歳の自分」 「進路相談」 「個別の支援計画」	◇3年間の学習予定を知る ◇仕事・暮らし・楽しみなど将来の社会参加のイメージを、具体的に描く ◇自分にあった進路について話し合いながら決める ◇個別の支援計画作成に参加する	◇3年間の学習予定カレンダー作り ◇20歳や30歳、60歳などになったつもりで自分史作り ◇個別面談、三者面談 ◇個別の支援計画作り	総合的な学習の時間 生活単元学習 学級活動 など	将来設計能力	1年 2年 3年
職業に関する学習	C いろいろな仕事 「学校で働く人」 「学校の近くで働く人」 「先輩の実習、卒業生の職場」 「卒業生に聞く」 「職場見学」 「仕事しらべ」 「仕事の仲間分け」	◇身近な人の仕事の様子を、見たり、聞いたり、会ったり、調べたりする ◇様々な職業があることを知る ◇働くことの意義や大切さを知る ◇職業には仕事内容や求められる力など、それぞれ特性があることを知る ◇これらの学習を通して「やってみよう」と思う	◇家族・学校関係者・学校近隣地域・進路先・上級生・卒業生など身近で働く人を利用した、授業ゲスト、生徒インタビュー、ビデオ紹介、職場見学会など ◇求人誌、インターネット、新聞などメディアを活用した調べ学習	総合的な学習の時間 生活単元学習 職業科 など	情報活用能力	1年
	D 職場で大切なこと 「学校と職場の違い」 「いろんな人にインタビュー」 「ビジネスマナーを身に付けよう」 「休む時はどうする？労働条件って何？」	◇学校の勉強と会社の労働の違いを比べる ◇働く時の大切なルール(勝手に休まない、安全に気を付ける、報告・連絡・相談をする、指示を守る、正確さを心がける等)を学ぶ ◇職場にふさわしい服装やふさわしいあいさつなどビジネスマナーを知る ◇休憩時間の過ごし方を考える ◇遅刻・欠勤等の連絡の仕方、休暇の取り方、給与と諸手当など労働条件の基本を知る	◇自分の現場実習や作業学習経験等の振り返り ◇卒業生など身近な働く人の話の聞き取りなど ◇仕事上で想定される様々な場面のロールプレイやビデオ、絵カードなどの活用 ◇模擬電話や、休暇届の記入などのシミュレーション ◇求人票、雇用契約書、就業規則などの読み方	総合的な学習の時間 生活単元学習 職業科 など	情報活用能力	2年 3年
働く	E 作業学習 「○○班の仕事覚えよう」 「My手帳書を作ろう」 「目標を考えよう」 「あいさつ・報告強化月間」 「○○班検定」 「販売計画作り」	◇働く喜びを知る ◇働くことが人の役に立つことを知る ◇働く意欲や自信を持つ ◇自分の目標を考える ◇望ましい作業態度や作業習慣を身に付ける ・あいさつ、返事、報告、連絡、相談など、働くために大切な習慣を身に付ける ・時間を守る、正確さを心がける、安全に気を付ける、最後までやり遂げる、できるだけ速く取り組む、協力する等基本的態度を身に付ける ・進んで身支度や準備、片付けに取り組む姿勢を身に付ける ・持続的に取り組む力を身に付ける ◇作業工程や役割分担を覚える ◇必要な道具の安全な扱いに慣れる	◇各作業班による作業実習 ◇作業日誌作り ◇ポイントメモ作り ◇My手帳表作り ◇ミーティング、反省会の実施 ◇○○強化月間、○○技能検定などのテーマ設定 ◇パソコンによる作業量管理 ◇文化祭、近隣の商店等における製品販売 ◇校外出張作業	作業学習	情報活用能力	1年 2年 3年
	F 現場実習 「一日体験」 「校内実習」 「グループ実習」 「現場実習」	◇実際の職場で働く経験をする ◇1日を通して働く経験をする ◇2～3週間、継続して働く経験をする ◇働く喜びを知り、卒業後のイメージを高め就職する意欲を持つ ◇複数の実習体験を通して、自分にあった職業や職場を考える ◇その他、経験的に学び、働く力を付ける	◇希望する職場での一日体験 ◇校内実習 ◇企業でのグループ現場実習(教員付き添い) ◇個別現場実習	校外学習 校内実習 現場実習 など	情報活用能力	1年 2年 3年
実習に関する学習	G 現場実習事前事後学習 「校内実習の会社を作ろう」 「会社の目標、会社の仕事」 「前回の実習を思い出そう」 「私の目標」 「私の仕事と日課」 「上手な面接」 「一人で通勤」 「友達の実習」 「みんなで頑張ろう」 「良かったところ、これから頑張りたいこと」	◇実習の日課、仕事内容、実習先の決まり等について知る ◇通勤方法、連絡方法などを知る ◇今までの学習を振り返り、自分の課題を整理し、実習の目標を立てる ◇実習を振り返り、良かったところと今後の学習や生活における課題を考える ◇実習を振り返り、自分にあった仕事や職場を考える	◇会社作り(校内実習)、実習日誌作り、実習先面接などを通じた日課や仕事内容などの把握 ◇予定される仕事の事前練習 ◇今までの実習や普段の作業学習のビデオ、日誌などを活用した目標作り ◇実習壮行会、報告会 ◇個別面談	総合的な学習の時間 生活単元学習 職業科 学級活動 など	情報活用能力	1年 2年 3年

分野	単元名・題材名等の例	中心となる学習のねらい・つけたい力	学習方法の例	教科・領域等指導面の例	キャリア能力の領域	主な実施学年
他者との関わり方に楽しむ	H 大人のマナー 「社会人スキル○○検定」 「大人のマナー教室」 「お化粧、おしゃれを楽しもう」	◇身の処置やあいさつなど社会人として期待される基本的な生活習慣やマナーを身に付ける ◇場面に応じた化粧や服装などを知る	◇学校生活の各場面での指導 ◇得意・不得意分野の○○検定制度を設定、毎日の身だしなみポイントカード制度導入 ◇卒業生の体験談 ◇化粧品会社やホテルなど学校外の協力を得たマナー教室	総合的な学習の時間 生活単元学習 日常生活の指導 学級活動 など	人間関係能力	1年 2年 3年
	I コミュニケーション 「伝えよう私の気持ち、感じてるあなたの気持ち」 「ちょっと相談してみよう」 「みんなのルール作り」 「携帯電話のマナー」 「仲間と楽しく遊ぶ」 「デートの計画」 「セクハラって何？」	◇楽しさ、うれしさ、寂しさ、怒り、感謝などの気持ちが伝わりやすい表現を学ぶ ◇職場や家庭、友人関係など、困ったり悩んだりした時の身近な相談相手を考える ◇自分の意見を伝え、他人の意見を聞いて、物事を決める話し合いの方法を知る ◇携帯電話やEメール使用のマナーを学ぶ ◇遊びへの誘い方など仲間と一緒に楽しむためのマナーを知る ◇異性との付き合い方のマナーを考える	◇自分や友達が活動している写真、様々な生活場面の4コマ漫画や絵カードなどに台詞を入れる学習 ◇教員によるやりとりのロールプレイ ◇教員や生徒自身による誘い方、遊び方のロールプレイ	総合的な学習の時間 生活単元学習 日常生活の指導 国語科 学級活動 など	人間関係能力	1年 2年 3年
関する学習	J 余暇 「休みの日の過ごし方」 「○○に行こう」 「趣味の仲間」	◇自分の余暇の過ごし方を振り返る ◇交通機関、宿泊施設、公共施設利用の計画の立て方と利用方法を知る ◇時間と費用を考えた計画の立て方を知る ◇部活動等のOB会、青年学級、地域や職場のサークルなど余暇を楽しめる場所や仲間を知る	◇1週間のスケジュール作り ◇インターネットや情報誌による校外学習・修学旅行などの目的地の情報収集と、計画作り、参加 ◇サークルマップ作り	総合的な学習の時間 生活単元学習 職業科 家庭科 学級活動 など	人間関係能力	2年 3年
暮らし	K 金銭管理・消費生活 「給料と生活費」 「知ってる？携帯電話料金」 「○○買い物計画」 「ローン、カードの仕組み」 「チャージがあるから大丈夫？」 「ネットで買い物」 「キャッシュセールス甘い罠」 「しっかり管理しよう、財布、通帳、印鑑、カード」 「暗証番号」	◇毎日使うお金と毎月使うお金、必要なお金と楽しむためのお金と貯めてから使うお金など生活費の簡単な分類を知る ◇収入と支出のバランスのとれた給料の計画的な使い方の大切さを知る ◇キャッシュカード、電子マネー、消費者金融などの仕組みを知る ◇貯金などによる計画的購入の大切さを知る ◇インターネットショッピングなど通信販売利用の注意点を知る ◇キャッシュセールスなど悪質な商法から身を守る方法を身に付ける ◇財布、通帳、印鑑、カード類、暗証番号などの管理方法を知る	◇小遣い帳や学級会計簿の記入、家計簿ソフトの利用 ◇レシート、請求書、家計簿、小分け封筒などを使った生活費管理の模擬体験 ◇通帳の記載や電子マネーのチャージと引き落とし記録などを使った模擬体験 ◇教員によるロールプレイやビデオの活用	総合的な学習の時間 生活単元学習 家庭科 数学科 学級活動 など	意思決定能力	1年 2年 3年
	L 健康的な暮らし 「健康的な暮らしって何」 「簡単メニュー、楽々クッキング」 「栄養のバランス」 「清潔と健康」 「洗濯機にお任せ」 「リラックスして？」 「お酒とたばこ」 「大人も受ける健康診断」 「病院の利用」 「楽しい夜更かし？おいしい大食い？」	◇働いたり楽しんだりするために健康的な暮らしが土台となることを考える ◇バランスのとれた食生活の大切さと、簡単なメニューの立て方、調理方法を知る ◇歯磨き、入浴、清掃、洗濯などによって清潔さを保つことの大切さを知る ◇体と心をリラックスさせ、ストレスを減らす方法を知る ◇飲酒、喫煙の影響と、ドラッグ等の危険について知る ◇健康診断の大切さ、健康保険証や病院の利用法、薬の飲み方・管理方法について知る ◇夜更かし、暴飲暴食などによる健康や仕事への影響を考える	◇教員によるロールプレイやビデオの活用 ◇調理実習と卒業後も使える自分レシピ集作り ◇エプロン・作業着などの洗濯機使用 ◇清掃活動 ◇ヨガ体操やマッサージ、アロマテラピーなどの体験 ◇栄養士、養護教諭、校医、薬剤師などの授業参加 ◇禁煙教育等のビデオの活用、実験 ◇身近な病院、診療科調べ ◇薬の効能書きの読み方	総合的な学習の時間 生活単元学習 職業科 家庭科 保健体育科 学級活動 など	意思決定能力	1年 2年 3年
	M 独り立ち 「グループホームの生活」 「結婚と子育て、身近な人に聞いてみよう」 「ご近所付き合い、助け合い」 「身を守る、防犯、防災」	◇グループホームなど独立した生活の様子について知る ◇結婚や子育てについて考える ◇ゴミの出し方、地域の催し物への参加など地域生活のルールがあることを知る ◇火の元や戸締まりの確認、避難所情報等災害への備えなど、防犯や防災について学ぶ	◇卒業生の話やビデオによるグループホームの紹介、見学など ◇子育て中の先輩や父母の話、自分の母子手帳やアルバムの利用 ◇自治体広報やHPの利用 ◇教室等のゴミの分別やクラス回覧板の利用 ◇調理室等での火の元・戸締まり指差し確認の習慣化	総合的な学習の時間 生活単元学習 日常生活の指導 社会科 家庭科 学級活動 など	将来設計能力	2年 3年
社会関する学習に	N 制度の理解と利用 「困った時は相談しよう」 「障害基礎年金」 「選挙権、決める権利」 「サービスと税金、みんなで作る社会」	◇就労や生活、余暇の様々な支援サービスと支援機関の場所や利用方法を知る ◇障害基礎年金について知る ◇選挙権の行使の仕方を知る ◇消費税など身近な税金とその使い道を決める選挙や議会など社会の仕組みと、その社会の一員である自分を知る	◇ハローワーク、福祉事務所、就労援助センター等の見学、各機関による話、担当者面談 ◇支援機関やサービスを利用している卒業生の話 ◇生徒会選挙や各議会選挙の機会の利用 ◇消費税など身近な税金とその使い道の決め方のロールプレイ	総合的な学習の時間 生活単元学習 社会科 学級活動 など	将来設計能力	3年

* 研究の紹介

総合教育センターでは、平成19年度支援教育研究事業として、「特別支援学校（知的障害教育部門）高等部の就労を目指した進路学習の実践的研究」を実施しました。研究では、本活用ガイドで紹介した進路学習実施状況調査及び、「シラバス例」の作成の他に、調査研究協力員による授業実践を行いました。

社会参加の力を育てるには、生徒一人ひとりの成功体験を引き出し、友達と共有し、次の学習にいかすことが大切です。研究では、授業実践を通して、次のような工夫が役立つことを示しました。

- ① 体験を振り返りながら考える時間の設定
- ② 理解しやすく活動しやすい教材等の準備
- ③ 職務試行等を伴う工程分析の実施
- ④ 進路指導担当者の授業参加
- ⑤ 企業等外部機関との連携

研究結果について詳しく知りたい方は、総合教育センター「研究集録第27集（平成19年度）『特別支援学校（知的障害教育部門）高等部の就労を目指した進路学習の実践的研究』」
<http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/kankoubutu/shuroku.html> をご覧下さい。

* 進路学習の参考となる文献

特に代表的なものを挙げました。ここには掲載しませんでした。各学校の研究集が役立ちます。

書名	著者・编者等	発行所	発行年
主体性を支える個別の移行支援	松矢勝宏監修	大揚社	2004
実践から学ぶ「社会生活力」支援 自立と社会参加のために	奥野英子編	中央法規	2007
職業リハビリテーション学改訂第2版 キャリア発達と社会参加に向けた就労支援体系	松為信雄・菊池恵美子編	共同医書出版社	2006
自立生活ハンドブック11『ひとりだち』	全日本手をつなぐ育成会		2001
私たちの進路（あしたへのステップ）	全国知的障害養護学校長会	ニチブン	2007
卒業後の社会参加・自立を目指したキャリア教育の充実 キャリアトレーニング事例集 I ビルクリーニング編	全国特別支援学校知的障害教育校長会他編著	ジアース教育新社	2008
就労支援実務者のためのジョブコーチハンドブック	小川浩他	仲町台センター	2003
こうすれば働ける！新しい就労支援システムへの挑戦	世田谷区立知的障害者就労支援センターすきっぷ	エンパワメント研究所	2005
生活機能分類の活用に向けて－ICF（国際生活機能分類）：活動と参加の基準（暫定案）－	厚生労働省大臣官房統計情報部	厚生統計協会	2007
キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書～児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために～	文部科学省		2004
アセスメントハンドブック－評価の手引き－（本編）（資料編）	総合教育センター		2007
改訂版「より良い現場実習に向けて」実習マニュアル手引書（本編）（活用事例編）	総合教育センター		2005

『「進路学習の内容一覧－社会参加を進める力とその学習シラバス（例）－」活用ガイド』
の作成関係者

<助言者>

所 属	職 名	氏 名	備 考
株式会社ファンケルスマイル	取締役	浅 井 輝 生	平成19年度
神奈川県立保健福祉大学	教 授	長 谷 龍太郎	平成19年度

<調査研究協力員>

所 属	職 名	氏 名	備 考
神奈川県立保土ヶ谷養護学校	教 諭	立 川 直 之	平成19年度
神奈川県立保土ヶ谷養護学校	教 諭	小 川 和 豊	平成19年度
神奈川県立中原養護学校	総括教諭	福 田 瑞 穂	平成19年度
神奈川県立中原養護学校	教 諭	松 田 美 香	平成19年度
神奈川県立藤沢養護学校	教 諭	東 山 晃	平成19年度
神奈川県立藤沢養護学校	教 諭	塚 越 立 子	平成19年度

<神奈川県立総合教育センター>

所 属	職 名	氏 名	備 考
進路支援課	研修指導主事	三 島 賢 治	平成19年度
進路支援課	研修指導主事	篠 原 朋 子	平成19年度

「進路学習の内容一覧－社会参加を進める力とその学習シラバス（例）－」

活用ガイド

発 行 平成20年 3 月

発行者 田邊 克彦

発行所 神奈川県立総合教育センター

〒251-0813 藤沢市亀井野 2 5 4 7 - 4

電話 (0466)81-1582 (進路支援課 直通)

再生紙を使用しています



神奈川県立総合教育センター

カリキュラムセンター（善行庁舎）

〒251-0871 藤沢市善行 7-1-1

TEL (0466) 81-0188

FAX (0466) 84-2040

ホームページ <http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/>

教育相談センター（亀井野庁舎）

〒252-0813 藤沢市亀井野 2547-4

TEL (0466) 81-8521

FAX (0466) 83-4500

